大学生の学習動機づけと英語学習方略について発達的検討

早坂　昌子
（早稲田大学大学院人間科学研究科）

【問題・目的】

学習方略とは，「学習の効果を高めることをめざして意図的に行う心的操作あるいは活動」と定義されている（辰野，1997）。これまでの研究から，学習方略の使用を促すことの要因の一つに学習動機づけを高めることがあると考えられている。

本研究は，大学生を対象に，中学時代の英語学習方略と学習動機づけを回想法で調査し，さらに現在の学習動機づけを調査することで，英語学習方略の使用が中学時代と現在の学習動機づけにどのような影響を及ぼしているか比較することを目的とする。英語学習を取り上げた理由は，本格的な学習は中学から始まる為，他の科目より経験差がないと考えられたからである。学習動機づけは，中学生よりも大学生の方が勉強した期間が長く経験が多いので，単純作業のような方略よりも深く考える方略の方が動機づけが高まると考えられる。

【方法】

調査対象　首都圏の大学生 105 名（男性 40 名，女性 65 名，不明 3 名，平均年齢 19.97 歳（SD1.34））に質問紙調査を行った。

調査内容　(1)英語学習方略尺度：高校教師等 7 名を対象に英語学習方略を自由記述にて回答してもらい，KJ 法で分類した 40 項目について，「非常にあてはまる」から「全くあてはまらない」の 5 件法で尋ねた。(2)学習動機づけ尺度：Pintrich &De Groot (1990)が作成した学習動機づけ尺度（Motivated Strategies for Learning Questionnair）44 項目のうち，動機づけの要因である，Self-Efficacy（自己効力）9 項目，Intrinsic Value（本質的な価値）9 項目，Test Anxiety（テスト不安）4 項目を日本語訳したものを用い，英語の授業に対する学習動機づけについて，中学時代と現在についてそれぞれ「非常にあてはまる」から「全くあてはまらない」の 4 件法で尋ねた。

【結果・考察】

英語学習方略尺度 40 項目について，最尤法，プロマックス回転による因子分析を行ったところ，解釈可能な 3 因子項目が得られた。第一因子は，思考方略(α =.906)，第二因子は，作業方略(α =.820)，第三因子はメディア学習方略(α =.780）と名付けた。因子間相関を確認したところ，第一因子と第二因子の間に高い正の有意な相関がみられた。

英語学習方略尺度と中学時代と現在の学習動機づけ尺度の関係を検討するために，各因子の相関係数，平均値，標準偏差の算出と，t 検定を行った(Table1)。t 検定結果から学習動機づけは，中学生よりも大学生の方が自己効力は高まり，本質的価値とテスト不安が下がることが明らかになった。これは，調査対象者が中学高校時代は勉強をした学生が多いと思われるので，中学時代よりも現在の方が英語をよく知っている，理解できていると解答したと考えられる。相関係数については，中学時代は，自己効力とテスト不安が高い人ほど思考方略をよく使用し，本質的価値が高い人ほど思考方略とメディア学習方略をよく使用することが明らかになった。作業方略と学習動機づけの相関はみられなかった。大学生は，自己効力が低い人ほど作業方略をよく使用し，本質的価値が高い人ほどメディア学習方略をよく使用する傾向が見られた。

本研究では，現在よりも回想法で尋ねた中学生時代の方が，学習方略の学習動機づけに関係があることが示された。中学生は大学生ほど学習方略の使用が動機づけに影響されていないと考えられたが，高い相関関係が見られたのは，調査対象者の中学時代の成績に関係すると示唆される。大学生は自己効力と作業方略の間に負の相関関係が見られた。しかし，作業方略はある程度学習必要なことである。このことから，今後は，方略使用が動機づけを高め，かつ発達によってどのような変化をするか，様々な側面から検討したい。

Table1.英語学習方略と学習動機づけの相関係数，平均値（標準偏差），t検定結果

		思考方略	作業方略	メディア学習方略	M(SD)	*t* 値
自己効力	中学生	.44 ***	-.12	.17	2.55 (.85)	2.04 *
	大学生	.05	-.24 *	.14	2.38 (.79)	
本質的価値	中学生	.50 ***	.03	.35 ***	2.45 (.84)	-2.33 *
	大学生	.13	-.03	.23 *	2.64 (.77)	
テスト不安	中学生	.20 *	.10	.09	2.49 (.85)	-2.22 *
	大学生	.08	.12	.03	2.66 (.73)	
M(SD)		3.60 (.85)	2.94 (1.01)	1.96 (.84)		

***p<.001 **p<.01 *p<.05